

4月
2026年

169号

地域共創・未来共創の大学へ

広 沖縄大学 報

OKINAWA UNIVERSITY

発行

沖縄大学入試広報室
〒902-8521 沖縄県那覇市宇国場555
☎ 098(832)3270
<http://www.okinawa-u.ac.jp>



なりたい**自分**に
近づく**春**へ!
ここ**沖縄大学**で!!

履修登録について

登録はA4の紙に講義名をずらっと書いて、担当教員にサイン(印かん)をもらう形式だった！現在は学生各自のWEBページで科目を選んでいく方式でスマホでも簡単に登録ができるシステムですが、昔は受講科目を登録カードに書き込み、体育館で担当教員にサインをもらい、期限内までに教務課に提出することで履修科目が完了しました。毎年、登録開始前には体育館に長蛇の列ができ、多くの学生たちでごったがえしていました。1990年4月からは、手描きの登録カードがコンピューターの導入により、マークシート形式になっていきました。



20科目登録となると
同じ動作を20回も!!ヘトヘトに



教員も腱鞘炎になる程に!!

あの頃の春、 そして春

沖大キャンパス物語

2026年4月から学務システムが新しく(BlueからActive Academyに)変わります。新しいシステムではアプリでの利用が可能で、学生証もアプリから表示されます。履修登録もアプリから行え、各種通知も届くようになり、利便性も向上します。

季節が変わり、時代が加速するようにデジタル化が進む今日。気づけば私たちの視線は、いつも未来へと急ぎがちです。そんな今だからこそ、少しだけ時間を戻して、昔の沖縄大学の春の風景を紹介してみたいと思います。

“個人情報”なんて
言葉はなかった!!

入学式

ちょっと長めの入学式～入学式後に基調講演!!～

沖縄大学の入学式は以前はちょっと長かったのです。入学式を単なるセレモニーに終わらせることなく、これに実質的な意味を与えようと考え、1981年から著名人による入学式記念講演を取り入れていました。1986年にはジャーナリスト筑紫哲也さんをお招きし、「変化する沖縄で、自分の分からないものを探す努力が大切」と学生たちにエールをいただきました。



私立大学として初めてラジオでの合格発表に挑んだ沖縄大学は、つねに新しい挑戦を続け、可能性を切り拓いてきました。これからも学生を中心に据えながら、地域の未来とともに創り出す存在であるよう努めます。



合格発表

中庭に合格者の受験番号を張り出し、その横ではRBCラジオ生放送!!

現在では個人情報の観点から、合格発表はホームページで受験者が確認する方法ですが、昔は沖縄大学中庭に畳1畳分のパネル6～8枚を設置して、合格者の名前を張り出していました。(当時の広報誌4月号には入学者すべての名前の記載も行われていました。)また、1990年から数年間、ラジオ放送での合格発表特番を行いました。

当時、RBCアナウンサーの垣花章さんにどのようなラジオ番組の内容だったか何うと…。『土曜日のワイド「あきらの花の土曜日営業中」で現場から3時間半の生放送をしました。学長や課長などの関係者やお笑いサークル「ファニーズ」の漫才(今のFEC代表の山城智二さんのお兄さんたち)、バンドのライブなどもありました。中庭に放送席を作り放送したことを覚えています。整然とした学内の様子に、勉強をしたいと意欲ある学生にはとても良い環境だなあと感じました。』と、振り返っていただきました。

生放送内では合格者の名前が発表され、合格発表を見に来た高校生へのインタビューも行われ、喜びの声が紹介されました。



着任にあたっての抱負



国際コミュニケーション学科
[東南アジア研究、移民研究]
安里 陽子 教授

はじめまして。安里陽子と申します。大学卒業後、高校やマスコミの現場で働いたのち、フィリピンへ2年間留学し、東南アジア研究の道へ進みました。その後、関西や沖縄のマスコミに勤務しながら経験を重ね、再び大学院に進学して博士号を取得しました。3月までは岐阜高専で教員を務め、このたび沖縄大学に着任いたしました。故郷で希望していた仕事に取り組めることを大変うれしく思っております。学生のみなさんがこれからさまざまな世界へ羽ばたいていけるよう、全力で支援してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



経法商学科
[社会学]
小森田 龍生 准教授

経法商学部に着任いたしました小森田龍生（こもりだ・たつお）と申します。沖縄には毎年訪れており、大好きな土地で新たに教育・研究に携われることを心から嬉しく思っています。私の専門は社会学で、過労死・過労自殺問題や性的少数者のメンタルヘルスに関する研究に取り組んできました。社会学は「当たり前」を問い直すことを大切にする学問です。法律、経済、経営という経法商学部の学びの柱の中で、少し異なる角度から社会を捉える面白さを、学生の皆さんと一緒に探っていければと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



経法商学科
[応用経済学]
坂田 正三 教授

経法商学部に着任いたしました、坂田正三と申します。沖縄大学で教育、研究に取り組めることを大変楽しみにしています。開発経済論、アジア経済論、地域経済論などの講義を担当します。経済学を基礎としつつも、理論よりもむしろ事例を深掘りして学ぶ講義が中心となります。沖縄大学着任前は、ベトナムを中心とした東南アジア経済について研究をしてきました。これからは、アジアの中の沖縄経済という視点からの研究もしていきたいと思っています。これまでの経験や研究成果をみなさんの学びや地域の発展に役立てられるよう頑張ります。



福祉文化学科
[社会福祉学]
杉本 豊和 教授

みなさん、こんにちは！私は福祉文化学科に赴任します杉本豊和と申します。京都府で生まれ、愛知県の大学で学び、今で東京の大学で主に障害者福祉を教えています。以前より沖縄が大好きで沖縄で働くことを夢みてきました。希望が叶い、幸せを感じています。みなさんとともに学び、語り、みなさんの有意義な学生生活のお手伝いができればと思っています。趣味はパスタ作りとドライブ、ミュージカル鑑賞です。どうぞよろしく願いします。



国際コミュニケーション学科
[中国語教育学]
李 舒陵 准教授

はじめまして。2026年4月より着任します李舒陵（リシュリン）と申します。台湾出身で、以前は台湾にて出版社編集、翻訳、通訳、ライトノベル執筆などに携わってきました。専門は冊封使が琉球について詠んだ漢詩の研究です。台湾文化論及び中国語関連科目を担当予定です。ドラマやミステリーが好きなので、機会があれば華流ドラマや台湾文化についても楽しくお話できればうれしいです。中国語を通して、皆さまの視野が広がり、新しい出会いや関係が生まれることを心より楽しみにしております。



国際コミュニケーション学科
[教育学]
照屋 信治 教授

はじめまして。新任の照屋信治と申します。私の専門分野は沖縄近現代史教育です。沖縄大学では主に教職科目を担当します。私は大学卒業後、帰郷し、沖縄の高校で10年ほど歴史の教員をしていました。その後、大学院に進学し、研究者になりました。高校教員の頃も、研究者になってからも、沖縄大学でご活躍された諸先生方の議論やご研究に触発され、自身の研究を進めてきました。その沖縄大学で、学生たちと共に学び、議論し、未来を創っていけることに喜びを感じています。頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。



学生支援課
呉屋 春菜

みなさん、こんにちは。学生支援課・学生生活支援室のキャンパスソーシャルワーカー、呉屋春菜です。このたび専任職員として勤務することになりました。本学での勤務は4年目となりますが、これからも一人ひとりに寄り添い、学生の皆さんが安心して相談でき、気軽に立ち寄れる場所をつくれるよう努め、学生の皆さんが日々の大学生活で安心感を持ち、自分らしく挑戦や成長ができる環境づくりを大切にしていきます。困ったときや話を聞いてほしいときは、どうぞ気軽に声をかけてください。本学の一員として信頼される職員を目指し、丁寧に業務に取り組んでまいります。今後ともよろしく願いいたします。



学生支援課
安里 良也

今年度より、専任職員として採用していただきました。安里良也と申します。私は本学福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻を卒業し、卒業後は本学の非常勤職員として三年間勤めてまいりました。専任職員として母校で働けることを、大変嬉しく感じるとともに、身の引き締まる思いです。今後は、様々な事にチャレンジする学生の皆さんを支えていくとともに、教職員や地域の方々積極的にコミュニケーションを図りながら、本学のさらなる発展に貢献してまいりたいと思います。私自身、まだまだ学ぶべきことも多くありますが、一生懸命努めてまいります。これからどうぞよろしく願いいたします。



こども文化学科
[教育学]
松田 香南 講師

こども文化学科に着任いたしました松田香南（まつだ かなん）です。専門は教育の制度や政策で、教師の力量や研修に関する研究を行ってきました。最近とはとくに、戦後の沖縄で教師たちがどのように学び合い、学校教育をつくってきたのか、沖縄の歴史的な研究に取り組んでいます。出身は沖縄県那覇市で、教育現場で活躍する沖縄大学出身者の方々と出会う機会も多く、沖縄の教育を支える沖縄大学の役割の重要性を実感しております。その大学教育に携わらせていただく責任を自覚しながら、これから学生の皆さんと対話を深め、考えを共有し、学び合う実践を大切にしていきたいと思っております。これからどうぞよろしく願いいたします。

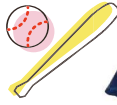
わたしのチャレンジは
学業と部活の両立!



上地 愛花さん
(管理栄養学科4年 石川高校出身)

昨年は国体に出場することができました。4年生になるので学業と部活を両立しながら、今年は全国大会で結果を出せるようにがんばりたいです。

わたしたちのチャレンジは
春のリーグ戦、優勝!



硬式野球部主将
田場 盛士さん
(経法商学科4年 具志川商業高校出身)

2026年、硬式野球部の目標は春のリーグ戦を1位通過!優勝することです。個人的にはタイトル(ベストナイン賞)を獲ったことがないので、獲りたいです!

私たちの

2026チャレンジ 今年の目標を紹介 します!

わたしのチャレンジは
教員採用試験、合格!



外間 広大さん
(こども文化学科4年 興南高校出身)

今年度は教育実習を頑張りたいと思っています。また6月には教員採用試験もあるので、毎日勉強する時間を確保して合格できるように頑張ります!

わたしたちのチャレンジは
国家試験、合格!



管理栄養学科4年

當間 優奈さん:「4年生になって力をいれたいことは、国家試験の勉強です。合格に向けてがんばりたいです!」

来間 萌加さん:「国家試験はもちろんですが、臨地実習も仕事に直結すると思いますし、学ぶこともたくさんあるかと思うので、がんばって挑みたいです」

宮城 知里さん:「勉強や就職活動など4年生は忙しくなるかと思いません。効率よく計画的にがんばりたいです」

わたしたちのチャレ
ンジは上位入賞!



空手道部

全日本に向けて、上位入賞できるようがんばります!

わたしたちのチャレンジは
全日本インカレに出場!



陸上競技部 男子リレーメンバー

まずは全日本インカレにリレーで出場するのが目標です。沖縄大学が県の陸上界を引っ張っていけるようがんばります!

わたしたちのチャレ
ンジは記録更新!



陸上競技部 女子リレーメンバー

県記録46.43、更新を目指します!

News & Topics

2026 2/23 沖縄大学×琉球コラソン 連携イベント 「琉球コラソン学生フェスタ2026」

ハンドボールクラブ「琉球コラソン」のホームゲームにあわせて、学生による学生のためのイベントが開催されました。本学福祉文化学科・中山健二郎先生の3年次ゼミ生が企画・運営を担当しました。今回のイベントは昨年に続き2回目の開催で、約80名の大学生が参加しました。



午前は沖縄大学・琉球大学のエイサー演舞やバンド演奏などのステージを楽しみ、午後は企業説明会、琉球コラソンの試合観戦、ライブ鑑賞と、盛りだくさんの内容となりました。

『公設市場エリアマップPR動画がデジタルサイネージでお目見え!』末吉ゼミ

那覇市の観光振興を目的に、英語を活かしたHP制作、Instagramでの情報発信、マップ作成など、地域の魅力を伝えるコンテンツづくりに取り組んでいる国際コミュニケーション学科・末吉綾乃先生のゼミ生が制作した「MAKISHI SAMPO那覇市牧志公設市場周辺マップ」のPR動画が、2月19日から那覇市内の大型デジタルサイネージで放映されています。那覇てんぶす前および公設市場観光案内所のデジタルサイネージ、国際通りの大型デジタルサイネージでも放映されます。



News & Topics

2026
2/4 体育会所属学生120人で国場地域を清掃活動

今回で3回目となるこの清掃ボランティア活動には、沖縄大学体育会に所属する学生と指導者ら約120名が参加、那覇市国場地域で清掃活動を行いました。今年度も5つの班に分かれ、約1時間にわたりゴミ拾いをしながら地域を歩きました。

税理士試験2科目合格！
(経法商学科 2026年3月卒業 岸本和樹さん)

経法商学科の岸本和樹さんが昨年8月に行われた税理士試験において「簿記論」と「財務諸表論」2科目に合格しました。高校までは勉強は大嫌いだと話すが岸本さんは、大学受験のときに、試験監督の先生から南風原高校出身で司法試験に合格した先輩の話聞いて憧れを抱き、そこから税理士を本気で目指そうと思うようになったそうです。“勉強は量をこなすこと！”それが誰でもできる勉強法だと話す岸本さんは今後大学院に進み税理士を目指します！



岸本和樹さん

英検準1級を取得！カナダ留学の夢うう！
(国際コミュニケーション学科3年 田里天志さん)

田里さんは大学1年の後期から英語の勉強に没頭し、2025年は短期間の勉強で英検2級、準1級に見事合格しています。毎日2～3時間ほど英語の勉強をしていて単語は毎日100単語に触れていると話すが田里さん。2月からカナダのトロントにあるヨーク大学へ留学中で今後の目標はIELTS（世界的な英語の試験）にチャレンジすること、大学院に行くことを視野に入れスコアを伸ばしていきたいと抱負を話してくれました。



田里天志さん

国家資格 日本語教員試験に2025年は5名が合格！

2025年度日本語教員試験の結果が昨年12月に発表され、本学からは国際コミュニケーション学科の5名が見事、合格しました。



屋良 美樹さん、新垣 志暢さん、嘉手納 光侖さん、當山 悠羽さん、伊盛 実来さん

2026
2/20 福祉文化学会主催「福祉実践活動助成実施報告会」を開催

この報告会は、福祉文化学科の学生が地域のQOL(生活の質)向上を目指して主体的に取り組んできた研究・実践活動の成果を共有することを目的としたものです。今回発表したのは、名城ゼミ「不登校や非行系の小中高生との遊びを通じた交流会」、石原ゼミ「福祉事業所利用者の体力測定」、中山ゼミ「地域団体との協働による車椅子ソフトボール大会への参加」、中山ゼミ「民間企業・行政と連携したパラスポーツイベントの開催」、玉木ゼミ「ライフストーリー本の制作およびブスター展の開催」の5ゼミで、活動内容や成果を動画も交えて報告しました。(写真は石原ゼミ「福祉事業所利用者の体力測定」)

2026
2/18 琉球弧の魅力を再発見！
研究支援プロジェクト成果報告会を開催

本プロジェクトは、沖縄大学の理念である「地域に根ざす大学」を体現する取り組みとして実施しているもので、学生が実際に地域へ赴き、フィールドワークを通して自らの足元を学び考える力を育むことを目的としています。今年度は、個人3件・団体7件の計10件の研究が採択され、その成果が発表されました。



こども文化学科2年次の研究チームは「渡嘉敷島における平和学習の実践と大学生の学びに関する調査」と題し、「集団自決」などの歴史について現地での学び、小学校の平和教育にどのように活かせるかを考察した内容を報告しました。また、管理栄養学科の学生たちは「現代の沖縄そばについて」「琉球・沖縄料理と出汁の関係」「琉球菓子ちんすこうの歴史と背景」「琉球料理ミナダルの文献的考察とレシピ改良」など、沖縄の食文化の歴史を調査し、現代的なアレンジや活用方法を提案する発表が多く見られました。

2026
2/14 『沖大生、戦没者の遺骨拾う』

遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表の遺骨収集活動に本学の学生ら12人が参加しました。昨年4月に糸満市喜屋武付近の森の中で掘り出された沖縄戦の戦没者とみられる全身遺骨、学生たちは、具志堅さんの指示のもと、ひとつひとつの骨を丁寧に拾いました。国際コミュニケーション学科4年の名嘉真メグさんは「これまで主体的に平和を考えていなかったで、自分ができることをと思って参加しました。私と同じくらい年齢の人が亡くなっていて、ここで本当に戦争があったことを実感しました」と話していました。学生たちは、戦争をより身近に感じたと同時に、戦後80年が経過し、その継承方法についても考える機会となったようです。

2026
2/10 『自分を知り、他者を支える専門職へ』2025年度
ソーシャルワーク実習 精神保健福祉実習報告会

2025年度は、ソーシャルワーク実習では68か所の施設・機関で74名が、精神保健福祉実習では21か所で12名(延べ24名)が現場実習を行いました。午前の部ではソーシャルワーク実習について、実習計画や達成状況、学んだことなどが発表されました。午後の部では精神保健福祉士の実習について、精神障害のある方との交流を通して得た学びや、精神保健福祉士の業務・役割に関する報告が行われました。





沖縄大学2025年度 卒業式

—493名が新たな一步を踏み出す—

3月13日、春の気配が漂うなか「2025年度 沖縄大学卒業式」が厳かに執り行われました。

経法商学科189名、国際コミュニケーション学科64名、福祉文化学科112名、こども文化学科58名、管理栄養学科70名、合わせて493名が学位記を授与され、晴れやかな門出を迎えました。

今年度の卒業生たちは、新型コロナウイルスの影響で思い描いた大学生活のスタートを切れなかった世代です。それでも、学業はもちろん、部活動や課外活動にも力を注ぎ、仲間とともに歩みを止めずに積み重ねてきた4年間でした。

式典では、経法商学科の牧門愛斗さんが卒業生を代表して答辞を述べ、大学で得た学びや経験、そして出会いへの感謝を胸に、「これからも成長を続け、社会に貢献できる人でありたい」と力強く語りました。

式典後は各学科ごとに証書授与式が行われ、恩師や仲間と笑顔で写真を撮り合う姿があちこちで見られました。別れの寂しさと新たな旅立ちへの期待が入り混じる、温かな時間となりました。

総代



経法商学部
経法商学科
平良 太耀



人文学部
国際コミュニケーション学科
伊盛 実来



人文学部
福祉文化学科
高原 心優



人文学部
福祉文化学科
照屋 美波



人文学部
こども文化学科
宮城 雄斗



健康栄養学部
管理栄養学科
松本 弥妃

2025年度 卒業生・修了生特別表彰者



嘉数昇記念賞



津曲 颯斗 [福祉文化学科]

津曲さんは、知的・発達障がいの方々を対象としたスポーツクラブでコーチを務め、全国知的障がい者サッカー選手権「太平電業カップ」において2024年、2025年と2年連続で準優勝を成し遂げました。また、ボランティアを続けてきたポッチャクラブでの活動も高く評価され、2023年には本学在学学生初となる「全国障害者スポーツ大会」沖縄選手団役員に抜擢されました。この大会で沖縄ポッチャチームは金メダルを獲得。津曲さんは指導力を評価され、翌年2024年の同大会において2年連続で沖縄選手団役員となり、ポッチャチームの監督を務めました（銀メダル獲得）。また、学内では新たにポッチャサークルを立ち上げ、選手の環境整備やポッチャの認知度拡大、障がい者スポーツの振興に寄与する活動を数多く積み上げてきました。

赤嶺 翔 [福祉文化学科]

赤嶺さんは本学陸上競技部の主戦力として活躍、競技と学業を両立し主将としてチームをまとめてきました。専門種目を100mと200mとし、2年次の第93回九州学生陸上競技対校選手権大会にて100m第三位。3年次には第79回九州選手権兼第109回日本選手権予選にて男子4×100mリレーで第三走者を務め、沖縄大学の初優勝へ貢献しました。また、沖縄県民体育大会では200mで3連覇を果たすなど沖縄県の陸上競技短距離界にて台頭し、沖縄大学の名を響かせました。

学長特別賞



比嘉 星斗 [福祉文化学科]

比嘉さんは学業のみならず、スポーツ・社会活動の分野においても主体的に挑戦し、成果を上げ、その姿勢は、本学の教育理念を体現するものであり、大学の社会的評価を高める存在でした。大学1・2年次には、全国から選抜された中学生を対象とする「リーダー研修」のスタッフとして、研修全体の質を高める役割を果たしました。現場でも年齢や出身の異なる中学生と真摯に向き合い、主体性や協調性を引き出すなど、周囲からの信頼も厚いものでした。また、全国的にも高倍率として知られる沖縄県教員採用試験（中学校・保健体育）において、現役合格を果たしています。これは、日々の学修に真摯に取り組み、専門的知識と実践的指導力を着実に身に付けてきた成果であり、学業面における高い達成度と自己管理能力を示すものと考えられます。

人文学部長賞



嘉手納 光伶 [国際コミュニケーション学科]

英検2級、TOPIK5級および国家試験日本語教員試験に合格し、語学力と日本語教育に関する専門性を高めました。また、全学研究プロジェクトに参加や新入生オリエンテーションでは在校生スタッフとして運営にも携わりました。さらに、ベトナムへのスタディツアーや各種国際交流活動にも積極的に参加、幅広い活動を通じて学内外の交流の活性化と大学への貢献に尽力しました。

健康栄養学部長賞



泉 舞華 [管理栄養学科]

在学期間を通して優秀な学業成績を修め、行政栄養士について学びたいと、臨地実習IIIを履修し沖縄市役所市民健康課にて実習を行いました。当該課にて「沖縄市健康レシピコンテスト」を実施していることを知り、自主的に応募、県産食材を使うことが条件であり、マグロを使っのレシピ考案、1食でバランスよく栄養がとれるようにと野菜とタンパク質にこだわり、審査の結果、2位にあたる「優秀賞」に選ばれました。

経法商学部長賞



内間 樹里愛 [経法商学科]

4年間で教員免許取得に励み、2025年夏の教員採用試験では一次試験に見事合格しました。また、石嶺中学校でインターン生として中学生のサポートを行ったほか、居場所型学校支援塾（特定非営利活動法人エンカレッジ）で、学校に居場所を見いだせない中高生たちのサポートも行ってきました。

仲間 大地 [福祉文化学科]

在学期間を通して優秀な学業成績を修め、社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格取得を果たしました。卒業論文では「よいケアとは何か」をテーマに、実践的かつ学術的意義の高い研究をまとめています。また、高齢者のライフストーリーを本にするゼミ活動では中心的役割を担い、地域との交流を通して本学の福祉教育の価値を学外に発信するなど、他の学生の模範となる成果を挙げています。

安里 優佑 [こども文化学科]

成績優秀で他の学生の模範であり、沖縄県の教員採用試験にも合格しました。卒業論文では、小学校から高等学校まで続けてきた野球の普及と底上げのため、その簡易普及版の新競技「ベースボール5（ファイブ）」をテーマとして取り上げ、その競技講習会にも進んで参加し、自らも体験するだけでなく、参加者からアンケートの協力を得て、小学校の教育現場への導入という実践的な活動も行いました。

岸本 和樹 [経法商学科]

2025年8月に行われた税理士試験で極めて難易度の高い会計2科目（簿記論と財務諸表論）に合格しました。本学の学業と両立しながら合格を果たしたことは、岸本さんの勉強に対する高い意欲および忍耐力を示したものです。

大学4年間で培った知識や経験を自分の言葉でしっかりと企業に伝え、希望する職種の内定をつかみ取った学生たちの就職活動をご紹介します。

入学当初は「大学生活で何に取り組めばよいのか」と模索していた学生たちが、それぞれの挑戦を通して自信を身につけ、たくましく成長した姿が印象的でした。



国際コミュニケーション学科
(糸満高校出身)
内定先:株式会社
リウボウインダストリー
屋良 美樹さん

将来の進路を決めるために学んだ4年間

言語だけでなく、国際社会やコミュニケーション学など幅広く学べると知り、沖縄大学に進学を決めました。1,2年のときは学園祭実行委員なども務め、日本語教員養成課程なども履修し資格取得もできたので充実した4年間を過ごせたと思っています。

就職活動をふりかえって

就活は大学3年の4月からスタートさせました。合同説明会やインターンシップ(マスコミ)を行い5社ほど受験しました。面談練習は週に2回行い、終わったあとには振り返りをノートに記したりもしました。面接では最初に「緊張していること」を伝え、相手も理解してくれる気がします。そして思っているよりも大きな声でゆっくり話すことを心掛けました。

大学時代に学園祭の実行委員などを務めた経験からアイデアを出しイベントの企画などに携わることができればと考えて、最終的には希望の職種に就くことができました。

どのような社会人になりたいですか

将来的には催事を企画するのが目標です。いままであまり興味をもたなかった食やファッションの勉強もしていきたいです。

後輩にアドバイス

やりたいことなどがまとまっていなくても合同説明会などには参加したほうが良いです。また会社訪問もたくさんしたほうが良いと思います。

2025年度 内定者に聞く!

経法商学科
(浦添高校出身)
内定先:ANA沖縄空港株式会社
内間 樹里愛さん



将来の進路を決めるために学んだ4年間

高校時代は学校の先生になることを目標にしていたので、教職を履修できる沖縄大学に進学をしました。大学3年に、読んでいた漫画の影響でJAXA(宇宙航空研究開発機構)に興味を持ち、就職を希望したのですが書類選考で落ちて、その後、航空業に就きたいと、受けたANA沖縄空港株式会社に内定をもらうことができました。(教員採用試験も受験して、1次は合格することができました。試験勉強には早い時期から取り組んでいたため1次通過は嬉しかったです。)

就職活動をふりかえって

教員採用試験を念頭においていたので、方向転換して就職活動は3年の3月から始めました。少し遅かったかもしれませんが遅れを取り戻すため、とにかく調べて情報を得ました。面接の練習が大変で、大学の就職支援課だけでなくハローワークやキャリアセンター、学生生活支援室の職員さんにも面接練習につきあってもらい、少しずつ自信につなげていきました。

面接では面接官のかたを笑わせることもできたり、自然体で臨めたかとおもいます。学生支援室のかたに、緊張を取るコツをきいていて、それでリラックスして望めました。その方法は、前日にお笑いを見ること!です。芸人さんの面白いYouTubeなどを見ました。

どのような社会人になりたいですか

人との出会い、周りのひとに感謝をして、日々の感謝を忘れずにやっていきたいです。

後輩にアドバイス

とにかく行動あるのみ!そして早めに行動することにこしたことはないです。



福祉文化学科(沖縄水産高校出身)
内定先:医療法人以和貴会 西崎病院

仲間 大地さん



将来の進路を決めるために学んだ4年間

高齢者と関わるのが好きだったこともあって、小学生の頃から福祉の道に進んで、介護福祉士になることを志していました。そのため、専門学校で学ぶつもりだったのですが、高校の担任の先生から「絶対に大学に行って社会福祉を学んだほうがいい」と強く勧められ、大学進学を決意しました。

結果として大学に進学して本当によかったと感じていて、社会福祉の道を勧めてくれた先生方にはとても感謝しています。

大学4年間でソーシャルワークと出会って学んだことで、物事の背景やその人が置かれている状況を多面的に深く考えることができるようになったなど、自分自身の変化を感じています。

就職活動をふりかえって

大学2年生の時に専門科目の講義で、西崎病院のMSW(医療ソーシャルワーカー)の講話を聞く機会がありました。そのときにソーシャルワーカーの役割に魅力を感じ、3年次の実習を西崎病院で約1か月お世話に。西崎病院のMSWの皆さんから学ぶ中で「働くならこのチームの一員になりたい」と思い、就職試験を受け、内定をいただきました。第一希望が叶って、とても嬉しかったです。

どんな社会人になりたいですか

患者様と一緒に伴走しながら、今後の生活を考える大切な場面に立ち会うことがある仕事です。だからこそ、目の前にいる相手に寄り添い協働できるMSWを目指したいと考えています。大変なことも多いと思いますが、その中に楽しさややりがいを常に見つめられる社会人になりたいと思っています。

後輩にアドバイス

福祉分野の就職活動は、他の業種と比較するとスタートがゆっくりな気がします。私も焦って就職活動をしたというよりは、「どんなソーシャルワーカーになりたいか」と卒業後のことをじっくり考え、採用公募が出てから受けて合格できたという感じなので、焦らずに!そして、一番は自分の気持ちやタイミング、直感を大事にすることだと思います!!

就職活動は十人十色かもしれませんが、情報を早い時期に得ることで、志望する職業に近づくのは間違いありません。

沖縄大学就職支援課では学生ひとりひとりにあわせた就職支援を行っています。「どんな企業があるの?」、「自分に向いている職種とは?」、あなたの疑問に全力でサポートします。まずは就職支援課の窓口で気軽に相談してください。

福祉文化学科(前原高校出身)
内定先:琉球日産自動車株式会社

外間 朱恩さん



将来の進路を決めるために学んだ4年間

保健体育の教員になりたく、大学に進学を決めましたが、徐々に一般企業を希望するようになりました。選択に間違いはないと思っています。

就職活動をふりかえって

就職活動をスタートしたのは3年生の2月からです。合同企業説明会などに参加していろいろな仕事の話をして、働きやすい環境、そして成長できる環境の職場を第一条件として就職活動は行いました。心掛けたことは、人をきちんと見るということ。企業の人事担当のかたと話す機会が多くあったので、「この先輩についていきたい」そう思える企業を選びました。

就職活動はこれまでの集大成のようなもの。何を準備するのではなく、自分の考えを伝える、そして素直さは大事だと思いました。就職支援課のサポートも受け、応募書類の添削などをお願いしました。

どんな社会人になりたいですか

社会に出て、恥ずかしくない大人になれば良いと思います。自由が好きなので、自由でいられるように、やるべきことはやる、先輩がた、そして周りの人とのつながりも大事にしながら重宝がられる人、認められる人になりたいと思います。

後輩にアドバイス

「直に、嘘はつかない。」就職活動は大変なこともあるかと思いますが、仲間と励ましあいながらモチベーションを維持して頑張ってください!

将来の進路を決めるために学んだ4年間

私は幼少期に食中毒を経験し、それをきっかけに食と健康について正しく学び、地域に貢献できる人になりたいと考えるようになりました。そこで、県内唯一の管理栄養士養成校である沖縄大学への進学を決めました。大学生活では、勉強時間や読書の時間を意識して確保する習慣が身につく、自分自身で時間をコントロールできるようになりました。計画的に行動する力が養われたことは、4年間で得た最も大きな成長の一つです。

就職活動をふりかえって

3年次の10月から給食関連会社の就職活動を始めました。当初はその分野を志望していましたが、4年次に実習でお世話になった病院で働きたいという思いが次第に強くなりました。新卒採用はないと伺っていましたが、自分の気持ちを直接お伝えしました。その結果、特別に採用試験の機会をいただき、本命の病院への就職が決まりました。今でも夢のように感じており、支えてくださった周囲の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

どんな管理栄養士になりたいですか

食の専門家として、地域に貢献できる管理栄養士になりたいです。

後輩にアドバイス

何事も先手必勝です。

管理栄養学科(コザ高校出身)
内定先:社会医療法人敬愛会 中頭病院

岸本 起歩良さん



第8回 わたしの先生、 紹介します!

今回は経法商学科の豊川明佳先生をゼミ生(3年生)の桃原一歌さんが紹介してくれます。

豊川先生は経営学が専門で、ゼミではマーケティングの基本知識を習得し、顧客のニーズを正しく理解し新たな価値を創造するにはどうすべきかを探求しています。

2026年3月に
ゼミ旅行で台湾へ



また、私の一番の楽しみだったゼミ旅行は3泊4日で台湾の高雄に行きました。旅行中は基本的に自由行動で、行きたいところを選んで好きに回ることができたので、夜市や動物園など観光スポットをいろいろ回りました。先生やほかのゼミ生たちとみんなで初IKEAに行ったり、お店を教えあったり、ゼミの仲間と楽しい時間を共有できたので、ゼミ旅行として行けてよかったなと思いました。豊川先生の海外での体験談や過去の豊川ゼミの先輩の話聞いたことがきっかけとなって、それまで怖がっていた海外旅行に挑戦できたので豊川先生からとても良いチャンスをもたらたと実感しています。1年生の時に比べて、2年生はその三倍くらい充実した1年でした。2026年度(3年生)は、さらにその三倍充実させたいです!

豊川先生は…
好きな食べ物: イタリアン (特にパスタ!)
休日の過ごし方: 休日も結構、仕事をしています。



いろいろ挑戦させてくれる先生です!

豊川先生は明るくて楽しい先生です!
ちなみに沖縄大学の副学長を務めています!!



桃原一歌さん

経法商学科
豊川明佳先生

私が豊川ゼミを選んだ一番の理由は、正直に言うとゼミ旅行に行きたいと思っていたからです。勿論それ以外にも、豊川先生だったら明るくて楽しそうだなというのもありましたが、豊川ゼミはゼミ旅行で海外に行けると聞いていたので、そのゼミ旅行に行きたいというのが一番の目的でした。こんな動機でゼミを選んだので、最初の頃のゼミでマーケティングに興味のある皆さんと言われたときは、ゴリゴリのマーケティングの授業が始まるのかとドキッとしましたが、豊川先生の明るくて呑気そうな(いい意味で!!)雰囲気を通り、世間話(ジャングリアの話など)をしながらマーケティングの視点を学ぶスタイルの授業なので、マーケティングを学びたいという動機が一番ではありませんでしたが、とても楽しく学んでいます。

2025年12月12日開催の経法商学科
ゼミナール大会で学生特別賞を受賞!
『豊川ゼミ(基礎演習II)なぜ沖縄県民は
水着を着けないのか』



そして、豊川ゼミでの活動で一番思い出に残っているのは、ゼミナール大会です。ゼミの授業のほとんどがこのゼミナール大会に向けての活動で、どの授業の課題よりも一番大変でした。豊川先生は結構、自主性を促す授業のスタイルで、最終的な期限や目標、参考資料は与えつつも、あとはゼミ生が自分たちで考えて取り組まなければならないので、特に初めの頃はコミュニケーションをとるのがすごく大変でした。さらに、学外でのアンケート調査や参考文献集めなど、大変なことはたくさんありましたがその分、学生特別賞をもらった時はこれ以上ないくらい達成感を感じました。

卒業生の活躍を紹介!

あの人はいま



Q 現在のお仕事について

2022年に現役を引退し、現在はクラブコミュニケーターとして、企業やメディアとの橋渡し役を務めています。企業・地域とFC琉球をつなぐ存在として活動しながら、ホームタウン担当としてマスコットキャラクター「ジンバーニョ」と一緒に朝の挨拶運動を行ったり、小学校で夢をテーマにした講話や体育授業を担当したりと、子どもたちに夢を届ける活動にも力を入れています。

今年からはU13のコーチも務めることになりました。

また、テレビ番組「KICK OFF! OKINAWA (琉球放送)」では解説を担当しており、4年目を迎えます。番組を通してFC琉球を知ってくれる子どもたちも増えてきていると感じています。

Q 沖縄大学に進学した理由

当初は県外の大学や専門学校への進学を考えていましたが、沖縄大学サッカー部の監督から声をかけていただき、もともと「学校の先生になりたい」という夢もあったことから進学を決めました。

大学時代に日本代表候補に選ばれたことをきっかけに、サッカー選手を目指すようになりました。仲間に恵まれ、試合でも自分を活かしてくれるメンバーに支えられたことでプロから声がかかりました。

高校から直接プロになる選手も多いですが、大学4年間で人間力を身につけられたことは大きな財産です。精神的にも成長できた時間であり、人との出会いがなければ今の自分はいないと強く感じています。

Q 現役時代に心がけていたこと

「練習は常に100%で取り組むこと」。これを徹底していたことで、試合でも慌てずにプレーできました。自分が本気で取り組

む姿勢は周囲にも伝わり、チーム全体の意識向上にもつながりました。

大学2年生の頃、「真剣にやれば必ず見てくれる人がいる」と気づいたことが大きな転機でした。そこからは自分が得た知識を仲間に伝え、チームの士気も高まりました。

自分より上手な選手はたくさんいましたし、高校までは県選抜にも入っていません。だからこそ反骨心を持って努力し、自分の特徴を磨くことに集中しました。身長(186cm)とスピードが強みでしたが、プロの世界では同じような選手が多くいます。そこでプロ1年目は「ヘディングを誰にも負けない武器にする」と決め、必死に練習しました。得点の多くがヘディングだったのも、その成果だと思っています。

Q 厳しいプロの世界をどう乗り越えたか

プロ2年目はまったく試合に出られませんでした。その年に結婚し、家族ができたことで踏ん張ることができました。子どもが生まれたタイミングで調子が上向いたこともあり、「この子たちのために頑張らなければ」という思いが大きな支えになりました。

Q 引退を決めた理由

「子どもたちが父親の職業を理解できる年齢になるまで現役を続けたい」という目標がありました。末っ子が小学3年生になったタイミングで引退を決意し、その目標は達成できたと感じています。

また、「沖縄で引退したい」という思いもあり、良いタイミングで沖縄に戻り、FC琉球で3年間プレーできたことは本当に良かったです。

Q 今後の夢

沖縄はサッカー人口が増えていますが、練習場などの環境面にはまだ課題があります。県外に選手が流出しないよう、沖縄のサッカー環境をより良くしていくことに貢献したいと考えています。

大きな夢としては、FC琉球をJ1に昇格させること。そして育成面では、日本代表選手を輩出することが目標です。指導者としてはまだ1年目なので、学び続けながら指導力を高めていきたいと思っています。

卒業生の活躍を紹介する企画「あの人はいま」。

今回は沖縄大学初のJリーガーで2022年に現役引退後は、FC琉球クラブコミュニケーターとしてテレビなどでもサッカー解説を担当するなど、沖縄でサッカーファン拡大に向けた活動を行っている上原慎也さんを紹介します。



上原慎也さんプロフィール

小学校3年生からサッカーをはじめ。西原高等学校を卒業後、沖縄大学法経(経法商)学部へ進学。大学1年(2005年)のとき、2005年九州大学サッカーリーグ2部の新人王に輝き、翌2006年にはユニバーシアード日本代表候補に選出される。2007年はエースストライカーとして九州大学サッカーリーグ2部の得点王に輝くなど、その活躍が目目されて2009年にJリーグチーム「北海道コンサドーレ札幌」に入団。2019年11月より、地元・沖縄のプロチーム「FC琉球」に所属。2022年に現役引退後、FC琉球クラブコミュニケーターとしてクラブとファン、クラブと企業を繋ぐ、サッカーの普及活動を行っている。

Q サッカー部の後輩たちへ

自分の可能性を信じて、2部昇格を目指して頑張ってください。僕がプロになれたのだから、みんなにも必ずチャンスはあります。沖縄大学から2人目のJリーガーが誕生することを期待しています。

Q 後輩たちにひとこと

夢や目標を持って大学に来ていると思います。その目標に向かって、学業も含め全力で取り組んでください。大学4年間は本当にあっという間です。一瞬一瞬を大切に、人とのコミュニケーションを大事にし、人との人間力を磨いて社会に出る準備をしてほしいと思います。



上原慎也さん

2025年度寄附金報告

2025年4月1日から2026年2月19日までの間にいただいたご寄附について以下にご報告いたします。このご厚意を大切に、学生のために有効に使わせていただきます。ご寄附をいただいた皆様に熱く御礼申し上げます。

総額 18,465,450円（総額については、匿名希望者のご寄附も含めた金額です）（金額順・五十音順）

2025年度冠奨学金

（2025年度20名に授与済み、寄附総額 7,000,000円）

1 株式会社沖繩銀行 様 5口 1,750,000円	4 沖繩電力株式会社 様 2口 700,000円	7 株式会社 OCS 様 1口 350,000円
2 株式会社琉球銀行 様 5口 1,750,000円	5 沖繩ビル管理株式会社 様 1口 350,000円	8 公益財団法人金秀青少年育成財団 様 1口 350,000円
3 株式会社沖繩海邦銀行 様 3口 1,050,000円	6 株式会社琉信ハウジング 様 1口 350,000円	9 沖繩大学教職員 1口 350,000円

【法人・個人】

木村英紀 様	2,000,000円
日本税理士会連合会 様	1,000,000円
株式会社神田組 様	350,000円
株式会社マーキュリー 様	100,000円
島村聡 様	100,000円
一般社団法人 全国栄養士 養成施設協会 様	70,000円
小島宏 様	50,000円
株式会社オキセイ産業 様	30,000円
株式会社大翔 様	30,000円
株式会社 COREA 様	30,000円
DoSports 様	30,000円
有限会社比嘉酒造 様	30,000円
奥間昌明 様	20,000円

仲地博 様	20,000円
仲村芳信 様	20,000円
仲村渠哲勝 様	10,000円
仲村渠ジェニファー 様	10,000円
樋口淳一 様	10,000円
毛利孝雄 様	10,000円
石川丈正 様	5,000円
大石直樹 様	5,000円
大森潤之介 様	5,000円
奥山敦規 様	5,000円
謝名孝雄 様	5,000円
備瀬知晶 様	5,000円
屋富祖繁幸 様	5,000円
（ご芳名のみ）	
アユラ放課後デイサービス沖繩 様	

株式会社セリオール沖繩 様
プラスール株式会社 様
ライト建設株式会社 様

【大学関係】

沖繩大学後援会	10,075,450円
沖繩大学教職員	1,330,000円
沖繩大学同窓会	500,000円
沖繩大学支援同志会	385,000円

【問い合わせ先】

メール：keiei@okinawa-u.ac.jp
FAX：098-832-0083
〒902-8521
沖繩県那覇市宇国場 555 番地
沖繩大学経営企画室 宛

沖繩大学へのご寄附について

本学を応援いただく皆さまとともに、研究教育活動等のさらなる充実を目指します。ご支援・ご寄附をお考えの方は、経営企画室までご連絡ください。

本学ウェブサイト「ご寄付をお考えの方へ」では寄附の種類や申込方法、税制控除等についてご紹介しておりますので、ご参照いただけますと幸いです。



「SSTを体験しよう！」

福祉文化学科名城健二教授、
読谷高校で出前講座

本学では、中高生を対象に「出前講座・体験講座」を実施しており、2025年度は28講座を開催しました。

2月16日には、福祉文化学科の名城健二先生が、読谷高校2年生約160名を対象に「SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）を体験しよう」という講義を行いました。講義では、私たちが物事をどのように判断し理解するのかといった“認知”の仕方について説明があり、その偏りを修正しながらコミュニケーション力を高める方法を、グループワークを通して実際に体験しました。たとえば、落ち込んでいる仲間がいた場合に楽しかった出来事を共有することで気持ちが前向きになること、相手の長所を褒める、認めることで人間関係がより円滑になることなど、名城先生は具体例を交えながらわかりやすく解説していました。

講座名：「SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）
を体験しよう」

内容
ソーシャル・スキルズ・トレーニングは、個々のコミュニケーション能力を高めるために、人の認知（物事を判断して理解すること）の仕方に焦点を充て、認知の偏りを修正するトレーニングです。本講座は、ロールプレイを取り入れ、楽しみながらコミュニケーションスキルを高めていくことを目標にしています。（プロジェクター、スクリーンが必要）

沖繩大学
出前講座・体験講座

沖繩大学では、主として沖繩県内や奄美、沖永良部、与論島の中高生を対象とした「出前講座・体験講座」を実施しています。中・高校生の早い段階から大学教育の一端に触れてもらい、進路選択の一助になればと考えています。学校・学年単位だけでなく、クラス単位での申し込みも可能です。沖繩大学にどのような先生がいて、どのような研究をしているのか、知る機会になればと思います。申し込みについては下記のQRコードからサイトへアクセスしてお申込みください。

※ 大学の講義等の都合により、ご希望に添いかねる場合もありますのでご了承ください。

※ 出前講座の実施に関しては講師料・交通費等は不要です。

講座内容は
こちらから



WEB申し込みは
こちらから